

# 「Remember who you are」

～選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民～

I ペテロ2：5～9

罪には私たちが何者であるのかということを忘れさせる力があります。ですから、聖書を通して自分が何者であるのかを思い起こしていく必要があります。

## I. あなたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民

王の王はイエス・キリストです。私たちはキリストの十字架の贖いによって、しみも汚れもない聖なる国民とさせられており、私たちの所属は神にあります。そして、祭司として生きていく役割があります。

<祭司の5つの役割>

### ①幕屋の建設（民数記1：49）

私たちは霊的なレビ人です。幕屋とはミシュカンという言葉で「住居・住まい」という意味です。これは主との出会い、交わりがある場所です。礼拝の本質はプログラムや環境ではありません。主との交わりです。レストランで最高のもてなしをするウエイターやウエイトレスのように主との最高の交わりをもたらしていくのが祭司である私たちの役割です。

### ②臨在を持ち運ぶ（申命記10：8）

契約の箱は主の臨在そのものでした。それを祭司（レビ人）は肩にかついで運びました。つまり、臨在は職場、家庭、学校…私たちの行く所どこにおいてももたらされるということです。また、私たちはキリストの大使であるとも聖書に書かれています。（IIコリント5：20）私たちは天の権威をまもって世に遣わされている外交官です。世の中の支配は私たちには及びません。私たちは世の中に行っても曲げません。

### ③主の前に立って仕える（申命記10：8）

「仕える」というのは「礼拝する」という意味です。聖書の中には「仕える」という言葉が人に対して用いられている箇所は一つもありません。神に対してだけ使われている言葉です。私たちはまず主に礼拝をささげていく者です。多くの罪は人を恐れることから始まります。私たちは人を変えることはできません。主に仕えていく時に主が人に働きかけてくださるのです。ですから私たちは恐れることなく主の前に誠実と忠実を尽くしていけるのです。

### ④御名によって祝福する（申命記10：8）

私たちは主の前に立った後で、人々を主の御名によって祝福する者です。祝福するということを勘違いしてはいけません。誰かを祝福したい時には相手が聞いたような言葉、プレゼント等をするかもしれませんが、聖書の言っている祭司としての務めである祝福というのは、相手が望んでいるものを与えることではなく、神が召されている姿へと押し出し、神の道へ招き、励ましていくことです。本当の愛とは優しくだけではなく、正しく生きる力を身に付けさせていくことです。肉の欲にあらがって神に従い通す力を宣言し、闇から光へと招き出していく…その励ましが本当の祝福なのです。私たちは巨人を倒す戦士であり、神のしもべであり、悪の要塞を打ち砕く者であるということと共に宣言していきましょう！

### ⑤人々を主への礼拝へ導く（II列王記17：26、27、28）

アッシリアの王は獅子がほえたけしている時に祭司を連れていき、そこに祭司を住ませ、神に対する礼拝を教えさせるように命じます。獅子が追い出されていく働きは真の礼拝者から始まっていったのです。祭司が遣わされ、礼拝者を育て、真の礼拝者がおこされ、そこに神の臨在がもたらされていったのです。この地の癒し、福音宣教は真の礼拝者から始まります。ですから、私たちは自らが礼拝する者であると同時に人々を主への礼拝へと導いていく者であることを覚えていきましょう。神様を知らない人がここに来る時に私たちは人の言葉や知恵ではなく、主の臨在で勝負しているのです。私たちのいる所に主が伴われ、主の命の水が人々を生かし、主の臨在が満ち溢れていきます。

## II. 選びの応えるものとなる

聖書は、人の期待ではなく「召しにふさわしく歩みなさい」と語ります。自分を見る時にそのようなことはできそうにないと思うかもしれませんが、私たちが偉大だから選ばれたのではなく、偉大な方が私たちを選ばれたのです。私たちを用いることができるのは神であり、選びの全責任は神にあるのですから、恐れなくて神に立てていくことができる者になりましょう。

<選びに応える者として>

### ①進んで献げる心を守る（出エジプト25：2）

時間、奉仕…すべてが奉納物です。主の愛に気づかされていく時に何ができてできなくても主が愛してくださっていることを知り、素の自分のままで愛に応えていきたいという願いに導かれます。同時に、私たちは人に対しても強いることはできません。「奉納物を携えて来るように、イスラエルの子らに告げよ。」（出エジプト25：2）と書いてありますが、「告げよ」は原語でダバール、英語では Speak という意味があります。語るのだから強いるのでも叩くのでもありません。モーセは岩を二度たたいたことによって約束の地に入れなくなったという失敗をしました。私たちは怒りの感情で民を導くことはできないということです。人を変えるのは主の御業です。ですから、告げるといふことにフォーカスする時に主がそれを用いて主の時にその人を変えて下さるのであるから恐れる必要はないのです。

### ②まず私が主に感動する一人であり続ける（出エジプト35：4-5、20-22）

モーセの言葉を聞いた民は解散していましたが、戻って来た者たちもいました。彼らは強いられていたわけではなく喜んで応答してきた者たちでした。私たちもまず自分自身が主に感動する者であり続けていきましょう。

### ③主が授ける知恵に頼り続ける（出エジプト記36：1、2）

私たちは人や自分の知恵ではなく上よりの知恵をいつもいただける者です。ダビデ王も前に進むにも後ろに下がるにも主にうかがいをたてた王でした。私たちは迷う者ですが、惜しみなく与えてくださるといふ約束を主は与えておられます。（ヤコブ1：5）

### ④与えられた賜物を最高レベルまで育てる（出エジプト36：1、I歴代誌25：7）

「知恵」「英知」は タブーン、ハハーンという言葉ですが「スキル（技術）」という意味があります。聖書には「与えられている賜物を管理しなさい」とあります。召しを全うするのに十分な賜物はそれぞれすでに与えられています。ですから、その賜物を使い、練習する必要があります。失敗しても良いのです。使って育てていくのです。しかも最高レベルまでです。神様がそれぞれに託す領域が必ずあります。それぞれの分野で精一杯、最上のものをささげていきましょう。

### ⑤何よりも増して主の御霊を必要とする（出エジプト31：1、2、3）

「…神の霊で満たした。」とあります。私たちの歩みは神の霊によって前進し、保たれ、完成していきます。自分の至らなさを感じることは感謝なことです。神の霊により頼み、2匹の魚と5つのパンのように自分を差し出した時に主がそれを祝福し、砕き、多くの心と霊を満たすことに用いられます。主は私たちを御霊で満たし人々を礼拝へ導く祭司として用いて下さるお方です。この召しに応えていきましょう。

## 祈りましょう…

主よ。私という器をあなたに明け渡します。主に仕えるレビ人、祭司として用いてください。

（要約者：全本みどり）

（2023年6月4日）